

JIA 建築展 vol.16 (第44回まちづくり研究セミナー)
ワークショップ報告書

公益社団法人 日本建築家協会九州支部北福岡地域会

■ ワークショップ （2014年 10月4日, 10月25日, 11月1日, 11月2日）

会場

AIM 2階 エイムスクウェア
AIM 2階 ガレリア
西日本工業大学 大学院 プレゼンテーションラウンジ

■ 会員作品展 （2014年 9月30日～11月16日）

会場

北九州市立美術館
AIM 2階 エイムスクウェア

■ セミナー・ワークショップ講師（いずれも2013年度 JIA新人賞受賞者）

矢板久明・矢板直子（株式会社矢板建築設計研究所）
長田直之（有限会社ICU一級建築士事務所）

■ ワークショップ参加校

北九州市立大学	10名（2チーム）
九州工業大学	8名
西日本工業大学	7名
近畿大学	9名
九州産業大学	7名
日本文理大学	6名
東西大学（韓国）	8名（2チーム）
釜山大学（韓国）	5名

参加学生 合計 60名（計10チーム）

■ スタッフ

三迫 靖史（JIA北福岡地域会会長）
服巻 良樹（相談役，前代表幹事）
浅田 典生（まちづくり研究セミナー事務局代表）

実行委員会

満井 輝吉（実行委員長）
戸村 一樹 塩釜 直人 杉野 友紀 松島 逸人
永澤 正哉 高橋 雅彦 小原 光晴 加藤 史衛

アドバイザー

福田 展淳 佐久間 治 赤川 貴雄 石垣 充

■ ワークショップ概要（1日目、2日目）

11月1・2日両日にわたり、AIMにおいてワークショップが行われた。

「まちなかスタジアム ……北九州の未来を描こう……」をテーマに、日韓の大学8校(10チーム)の学生が提案を作成した。1日はその最終制作日で、2日はクリティークが行われた。

11月1日 ワークショップ会場にて建築家の矢板久明さん、矢板直子さん、長田直之さん、参加校の教授、JIA 会員が、各チームのテーブルを廻りながら学生たちの提案を受け、意見を交わし合った。午後は、同施設のカフェにてまちの人たちに学生が自分たちの提案を説明し、意見交換を行った。また、まちの人たちに良いと思う作品について投票していただいた。

11月2日 前日の意見も取り入れた各々の作品を発表した。クリティークでは学生が熱心に提案し、講師の建築家と活発に意見を交わしている様子が印象的だった。

■ ワークショップ全日程

10月4日(土) セミナー(場所: AIM 2階 エイムスクウェア)

参加者 約 135名

セミナーやパネルディスカッションを通じてワークショップの課題が発表された。

講師 矢板久明・矢板直子 (株式会社矢板建築設計研究所)
セミナータイトル : 「かわらざるもの」

講師 長田直之 (有限会社ICU一級建築士事務所)
セミナータイトル : 「ばらばらなものがいっしょにいるのがばらばらだ」

パネラー 瀧上忠彦 (北九州市建築都市局 都心・副都心開発室 スタジアム整備担当課長)

パネラー 林田直子 (北九州青年会議所 副理事長)

セミナーでは、北九州市の瀧上スタジアム整備担当課長によるスタジアム概要の説明のほか、講師の各先生とパネラーから、まちなかスタジアムの実現によって大きく発展し賑わう北九州の未来を考える参考として、自身の建築への関り方や作品を通して、また、アメリカ、イタリア、スペインの各都市における生活・街・スポーツの関係性を例に、スポーツを基盤としたまちづくりについてプレゼンテーションされた。



10月25日(土) プレワークショップ(会場:西日本工業大学大学院 プレゼンテーションラウンジ) 参加者 約50名
参加校 : 北九州市立大学 2, 九州工業大学, 西日本工業大学,



11月1日(土) ワークショップ1日目 (会場: AIM 2階 エイムスクウェア) 参加者 約135名
ブリーフィング (会場: AIM 2階 ガレリア) 参加者 約200名

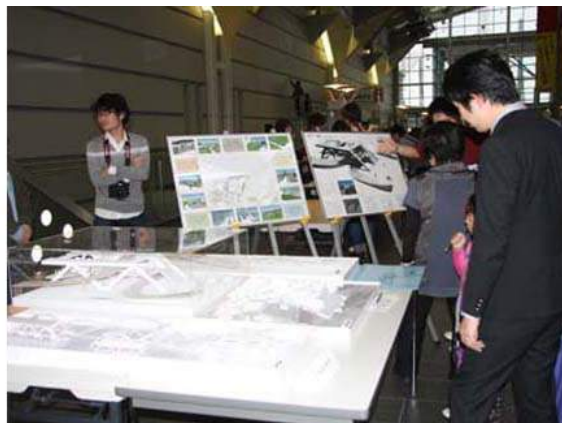
■ワークショップ1日目

講師の各先生や参加校の教授、JIA スタッフが各チームのテーブルを廻り、活発に意見を交わした。この日最終の一時間はガレリアに作品を移動し、まちの人たちに提案を発表して意見交換した。80名の市民のみなさんに投票していただいた。

得票数 九州工業大学(19票), 西日本工業大学(15票), 北九州市立大学 2(14票),
北九州市立大学 1(7票), 九州産業大学(5票), 釜山大学(5票), 東西大学 1(5票)
近畿大学(4票), 日本文理大学(3票), 東西大学 2(3票)



■ギャラリーでの投票会の様子



■ブリーフィング

ワークショップに並行し、ギャラリーにおいて 13:00~16:00 の間に講演とパネルディスカッション形式でのブリーフィングを開催した。

講演会 講師 南 博 (北九州市立大学 都市政策研究所 准教授)
講演タイトル 「まちなかスタジアム」

パネルディスカッション

コーディネーター 南 博 (北九州市立大学 都市政策研究所 准教授)
パネラー 村上 純一 (北九州市建築都市局 都心・副都心開発室長)
横手 敏夫 (株式会社ギラヴァンツ北九州 代表取締役)
林田 直子 (北九州青年会議所 副理事長)
田原 健太 (九州産業大学 (学生代表))
三迫 靖史 ((公社)JIA 九州支部北福岡地域会 会長)

新スタジアムによって我々の生活がどのように豊かになっていくのか、これからどのようなまちを創っていくのかを、市民の方々と一緒に考えることを目的として、講演会とパネルディスカッションを開催した。

北九州市立大学都市政策研究所の南准教授による講演会では、スタジアムの実現によって北九州都心部における集客交流が強化されることや、試合会場やキャンプ地誘致などのスポーツ活用のほか、スタジアムに AIM や西日本総合展示場など周辺空間を併せてのコンサートやフリーマーケット開催など幅広い商用の活用のしかた、実現へ向けての今後のスケジュールや、まちなかスタジアム整備の鍵として、周辺施設と一体的な利用による「多機能複合ゾーン化」が重要であること、などがプレゼンテーションされた。

続くパネルディスカッションでは、まちなかスタジアムの効果や成功への課題について、北九州市、青年会議所、ギラヴァンツ北九州、JIA、建築を学ぶ大学生の、パネラーそれぞれの立場や視点、これまでの活動から、様々な意見を出し合い、活発なディスカッションを通して広く市民の方々に情報を発信した。



11月2日(日) ワークショップ2日目:クリティーク (会場: AIM 2階 エイムスクウェア) 参加者 約90名

完成提案の発表およびクリティーク。日本、韓国、インドネシアからの留学生が発表し同時通訳を入れながら進められ国際色豊かなクリティークとなった。講師の先生や各大学の先生方からの質問や指導を交えて8時間行われた。



■ 作品講評（発表順）

① 近畿大学



（提案）スタジアムを核として西側にスポーツ施設や機能を集積しマラソン可能なペDESTリアンデッキで連結する。また、スタジアムの東側対岸に住宅地を形成して、両者に挟まれた小倉港廻りの海に多機能な浮島を浮かべることで、様々な可能性を提案している。

（講評）

- ・ 北側の臨海部に提案された丘状のランドスケープによってペDESTリアンデッキが地面とつながり活きている。
- ・ 東側対岸まで取り込んで提案している点が良い、浮島の提案は様々な可能性が想起されて面白い。
- ・ 東側対岸のハウジング工事が時間とともに進み、一方で、そこで出された土が臨海部の丘を成長させながら、50年の丘、100年の丘、と時間を刻んでいくなども魅力が有る提案である。

② 釜山大学（韓国）



（提案）まちの人々の体験や音楽や映像などを「CUBE」という概念の単位立方体として仮定し、それらが、このエリアを訪れる人々によって積み上げられ、自然発生的にまちが成長するというまちづくりの提案を、DIY（Do It Yourself）というキーワードで展開している案。

(講評)

- ・ 「CUBE」の集積が、人が集まるところでより密に進むことを想定し、人々のアクティビティに応じて自然成長的にまちがつくられていくというストーリー設定が素晴らしい提案。
- ・ 「CUBE」だけでは都市としての成長は困難であるが、スカイデッキとしてのペデストリアンデッキが全体の骨格となることでバランスされている。
- ・ 「CUBE」の必要性が何なのか、また、具体性が弱いなど、プラスアルファがほしいところ。

③ 北九州市立大学 1 (赤川研究室)



(提案)「自然回帰」をテーマとしている。小倉駅北側のエリアの土を削って運河を設け、森を作りつつ、その土でスタジアム敷地の沖に島を作る提案。橋で繋がれたそれらの島々にはスポーツや食事などの機能が設定され、スタジアムを核として自然の中でにぎわいが創出されることを意図している。

(講評)

- ・ 小倉駅からゴンドラでスタジアムへ移動するなど、エリア全域に設定されている運河を、より活性させる(エリアの活性に活かす)大胆さがほしい。一方では、スタジアムに一度に集まる観客の交通の量的な解決など、課題も多いと思われる。
- ・ 森や運河によって生態系の復活が期待できるなら、まちなかでの効果は大きい。

④ 北九州市立大学 2 (福田研究室)



(提案)「北九州市スポーツシティ化構想」 小倉駅の北南のエリアに、サッカー以外の運動施設も新設、集積し、それらが互いに密接に関することでスポーツを軸とした活性あるまちづくりを目指す。プロの育成や大会（オリンピックも）の開催などを想定しての施設を造りながら、一般の市民には体験型スポーツシティとしての機能も備える。また、将来（100年後を想定）は人々が自然の中で暮らすと考え、スポーツ施設を含めて都市機能は超高層化し、解放された地面を緑で覆いながら人々が暮らすという都市の姿、まちの形を提案している。

(講評)

- ・ スポーツの集積でシティとする提案は魅力がある。
- ・ 上部が広がった超高層構築物の形態の必然性は何か、説明がほしい。これだけ大きな平面形態となると、具体的には、緑で覆った地面への日照や降雨の確保などに課題が多い。

⑤ 九州産業大学



(提案)「みどりの丘スタジアム」 スタジアムの在り方の提案。

スタジアムに求められる要件は満たしながらも、構築物として建築するのではなく地面をすり鉢状に掘ることで競技場を形成する。イニシャル・ランニングともに大きなコストを要す建築は行わない。周辺の法面が有機的に観客席などの機能となり、緑地を形成しながら臨海域まで広がることで、競技開催時以外の平時においても公園や市民の運動の場として常に機能する。

(講評)

- ・ 公園が北側の海まで伸びていることが広がりとなっている。
- ・ コストパフォーマンスが優れる提案。
- ・ 実際に現行するスタジアム計画と併存できる魅力的な提案である。構築するスタジアムはメインスタジアムとして機能し、ここで提案されている「みどりの丘スタジアム」はサブスタジアムとして普段から市民がスポーツに親しんだり、ギラヴァンツの練習などにも活用できると思う。

⑥ 東西大学 1 (韓国)



(提案) 小倉駅の北口から北方向へ向かって観客を誘導する施設を並べ、公園を歩いたり建物を通過したり海を眺めたりなど、景色の変化でシーケンスを作り、駅から臨海部へ、臨海部から海岸に沿ってスタジアムへ、と魅力的な移動で導く提案。

(講評)

- ・ 造形の提案力がとても高くプレゼンも素晴らしい。
- ・ 各建物や公園など、それぞれの施設がどのように関連して効果を生むかなどの説明がほしかった。

⑦ 九州工業大学



(提案) ペDESTリアンデッキに機能を付加し有効に活用する。小倉駅北口からスタジアムまで、幅広く造られるペDESTリアンデッキは上部には飲食のお店が立ち並び、訪れる人々に小倉の食を提供し、ランニングにも活用できる。デッキの下部には各種スポーツの施設が設けられ、デッキの吹き抜けを介して上部の観客や通行人と、下部のスポーツが関連し合うことでにぎわいを創り出す。

(講評)

- ・ ペDESTリアンデッキの幅を大胆に大きくすることで、様々な付加価値を生もうとしている点が評価でき、駅からスタジアムへのアプローチの演出としても素晴らしい。
- ・ ペDESTリアンデッキ下部は日陰になるなど条件が悪いので、心地よいスポーツ空間とする検討が必要。

⑧ 日本文理大学



(提案) スタジアム実現に合わせて小倉駅北側の一带に商空間を形成し、人を集めて滞留させることを意図している。商空間は、タワーや観覧車などをランドマークとして設け、周辺には低層の屋台村や公設市場などの商業施設を配置している

(講評)

- ・ 人々の滞留を目指すコンセプトは評価できる。ただし、それぞれの施設の関連性や相乗効果が見える提案となっているとより良かった。
- ・ 施設間の移動など、人々の流動性に配慮や提案がほしい。

⑨ 東西大学 2 (韓国)



(提案) 小倉駅からスタジアムへ至る経路の一部のブロックを提案敷地として設定し、敷地内を貫通するように通路を地下1階レベルまで掘り下げ、両サイドを商業施設とする提案。

(講評)

- ・ 敷地が限定的すぎる。街なかのスタジアムをテーマとして、より広いエリアを対象としたにぎわいの提案がほしかった。
- ・ 通常は地上面を通路とし、両側に構築を立ち上げるところだが、掘ることで面白さを演出してある。地下レベルでありながら造形的な工夫で心地よい通路空間となっている。

⑩ 西日本工業大学



(提案) 現在の駅廻りのペDESTリアンデッキは単調であり、その下部は有効に活用されていない点に注目し、移動がより楽しくなるペDESTリアンデッキを提案する。堅牢なコアストラクチャを要所に配置し、それに支持されて柔らかく流れるようなラインのペDESTリアンデッキが駅からスタジアムを様々に繋げ、臨海部では水に親しめるような工夫や、陸上では緑に触れあうような工夫を凝らす。

(講評)

- ・ 単調となりがちなペDESTリアンデッキの特性を打ち破るアイデアが良い。
- ・ 構造のリアリティがほしい。
- ・ コアストラクチャはトラスに限らずより多様な構造の可能性を模索してほしい。

■ ワークショップ審査結果

矢板賞	西日本工業大学
長田賞	九州産業大学
JIA 賞	釜山大学(韓国)
ギラヴァンツ賞	九州工業大学

■ 各賞講評

矢板賞 : 西日本工業大学 講評者 : 矢板久明先生

まずは立体造形や模型の迫力、パワーが凄かった。北九州市は既存のペDESTリアンデッキが特徴であるが、その良い点と悪い点を考察し、題材として発展的に提案出来ていた。更に、提案を通してペDESTリアンデッキについて様々なシーンの展開を見せてくれた。

長田賞：九州産業大学 講評者：長田直之先生

スタジアムをランドスケープで造る発想が良かった。また、ワークショップ初日のディスカッションを活かし、24時間で最大限の努力を注いでいたことは高く評価したい。提案がとても良くなった。

JIA賞：釜山大学(韓国) 講評者：三迫靖史(JIA北福岡地域会会長)

「CUBE」を用いて、100年後まで分かりやすい提案となっていた。スタジアムをリフトアップして浮かせるなど、スタジアムそのものにも立体的な提案がなされていた点も評価したい。また、プレゼンテーションも秀逸であった。

ギラヴァンツ賞：九州工業大学 講評者：長田直之先生, 矢板久明先生

ワークショップ初日の内容から、ディスカッションを通じてダイナミックに展開し飛躍した。このような提案の発展を一緒に経験できてうれしかった。

ペDESTリアンデッキの良い方向の可能性を見れた提案であった。にぎわいが分かりやすく、市民投票で最高得票であったことも分かりやすい魅力的な提案故かと評価できる。

■ クリティーク総評者(総評順)

長田直之先生 (有限会社ICU一級建築士事務所)

矢板久明・矢板直子先生 (株式会社矢板建築設計研究所)

三迫靖史 (JIA北福岡地域会会長)

尾道建二 名誉教授 (九州共立大学)

岩下陽市先生 (株式会社クロスポイント 地域デザイン研究室 主任研究員)

益田信也 准教授 (近畿大学)

菅雅幸教授 (日本文理大学)

佐久間治 教授 (九州工業大学)

福田展淳 教授 (北九州市立大学)

Oh Gi Whan 教授 (東西大学(韓国))

Yu Gea Woo 教授 (釜山大学(韓国))

Hong Juhg Howan 教授 (東西大学(韓国))

■ クリティーク総評抜粋（総評順）

長田直之先生（有限会社ICU一級建築士事務所）

楽しいワークショップの機会をありがとうございました。

昨日各チームのテーブルを廻って意見を交わした状態から 24 時間でこれだけ頑張っただけで応えてくれてとても嬉しい。学生の皆にとっては 24 時間でこれだけだけのことが出来るか、とてもいい経験になったと思う。今日はこれでワークショップが終わるが、今日建築について深く考えたように、今後も考え続けてほしい。

矢板久明先生（株式会社矢板建築設計研究所）

このような貴重な機会に参加出来たことを感謝している。各チームの提案はどれも素晴らしく、我々にとっても設計やスタジオを考えるにいいヒントをもらったし、発見もあった。

矢板直子先生（株式会社矢板建築設計研究所）

ワークショップ1日目の意見やアドバイスがしっかりと受け止められ、提案の完成度が飛躍していた。チームで考えるプロセスの経験を、今後建築を考える際に活かせるよう大切に覚えておいてほしい。

三迫靖史会長（JIA 北福岡地域会）

意欲的な提案が多く揃ったことは JIA としても嬉しく思う。成果品を展示することで一般の人にも広く見てもらえるようにしたい。

尾道建二名誉教授（九州共立大学）

今回は講師の先生が 3 人となり密度が今まで以上に高かった。「あの日あの時あの先生にこう言われた」ということをしっかりと記憶し頑張りに続けてほしい。

岩下陽市先生（株式会社クロスポイント 地域デザイン研究室 主任研究員）

このワークショップで学んだ社会的視点をしっかりと持ち続け、人間不在の建築とならないように気をつけて頑張してほしい。

益田信也准教授（近畿大学）

学生達の熱心な頑張りや講師の先生との活発な議論が印象的なワークショップだった。とても素晴らしいワークショップだった。

菅雅幸教授（日本文理大学）

学生には、このワークショップを機会に JIA を覚えてほしい。この会が日本の建築を考えており、良くしようと頑張っている。人は何に感動するのか、今後北九州がどう変わっていくか建築を通して見ていきたい。

佐久間治教授（九州工業大学）

今年は講師が3名なので、学生は各先生と密度の高いやりとりが出来てよかったと思う。より真剣に考えれば考えるほど、より深い意見交換が出来、アドバイスが得られたと思う。この「より高める」という取り組みの姿勢を今後の役に立ててほしい。テーマは未来を扱っていて、夢と、にぎわいの創出という現実的なテーマとのバランスが大事なワークショップであった。この理想と現実のバランスを取ることへの取り組みも、今後の建築に活かしてほしい。

福田展淳教授（北九州市立大学）

例年、私のチームは留学生が多いこともあって、それぞれのバックボーンの違いからアイデアが大胆という特徴が有る。韓国の学生も同じで、日本の建築事情の中で提案を作っている。ぜひ日本の学生もこのような機会を活かし、日本の価値観だけでなく、それぞれの価値観を感じ取り、多様な視点を身につけてほしい。

Oh Gi Whan 教授（東西大学(韓国)）

課題が難しく毎年悩んでいる。今年もはるか先の未来を創造しながら設計を進めた。それでも毎回「今年が一番」と思うように、毎年進歩発展を感じる。特に今年は、3人の講師からの様々なアドバイスや意見を受けて学生が一生懸命に提案を高めようとしていた。素晴らしいワークショップだった。

Yu Gea Woo 教授（釜山大学(韓国)）

ワークショップの課題が、以前の建築的スケールから都市的スケールに変わってきている。学生にとっては、広いエリアを敷地と捉えて考える貴重な機会だと思う。今回もワークショップを通して学生の熱心な取り組みと先生たちの鋭い指摘や深いアドバイスに触れ、これが日本の建築の質を維持し高めていると感じた。今後も是非参加し続けたい。

Hong Juhg Howan 教授（東西大学(韓国)）

2000年から参加し続けているが年々レベルの向上を感じる。特に近年は作業も発表も女子学生の活躍が目立つ。このような機会は学生にはなかなか無いので大変貴重だと思う。今後ともよろしく願います。

■ 提案作品（発表順）



1. 近畿大学



2. 釜山大学(韓国)



3. 北九州市立大学 1



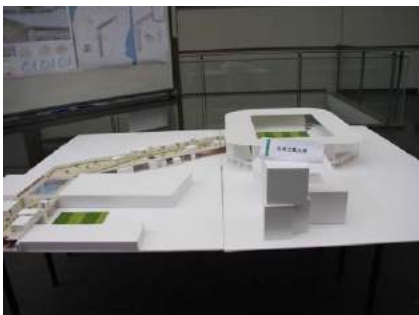
4. 北九州市立大学 2



5. 九州産業大学



6 東西大学 1(韓国)



7. 九州工業大学



8. 日本文理大学



9. 東西大学 2 (韓国)



10. 西日本工業大学

■ 作品展示 (2014年9月30日～11月16日)

ワークショップ作品展示

(11月2日～11月16日 AIM 2階 エイムスクウェア)



JIA 2013 年新人賞作品展示

(9月30日～10月26日 北九州市立美術館, 10月27日～11月16日 AIM 2階 エイムスクウェア)



矢板久明・矢板直子
(株式会社矢板建築設計研究所)
作品名 : PATIO



長田直之
(有限会社ICU一級建築士事務所)
作品名 : Yo(ワイオー)

JIA 北福岡地域会会員作品, JIA 宮城地域会復興支援活動資料, 建築展回顧リーフレット 展示

(9月30日～10月26日 北九州市立美術館, 10月27日～11月16日 AIM 2階 エイムスクウェア)



JIA 北福岡地域会会員 出展者名

- 安東建築設計事務所
- ㈱小川建築設計事務所
- 北九州市立大学福田研究室
- ㈱スズキ設計
- 平建築設計事務所(有)
- ㈱高橋環境建築設計
- ㈱東畑建築事務所
- ㈱東洋アンドアソシエイツ
- PRAISE 一級建築士事務所